

2014年1月12日 成人祝福礼拝

説教 試練の中での賛美

ヨブ記 1章 1-22 節

【大震災の後】

東日本大震災の後、「なぜこんなことが？」という疑問にどう答えたらよいか、悩みました。でも説明はとても虚しい。正しい説明であったとしても、納得できるものではないし、説明は家族を失った痛みや、生活のよりどころや住む場所を奪われた苦しみの助けにはなりません。一年を過ぎたころやっと語り始めることができるようになりました。ヨブの友人たちが七日間、だまってヨブと共に座っていた、とあります。ヨブにも、友人たちにもその期間が必要だったのでしょう。心が寄り添い、心が語り、心が聞くことができるようになるためには時間も必要なのだと思わされます。

【ヨブ記】

ヨブ記は独特。通常、旧約聖書は、神と共に歩む者には祝福が伴い、神に背を向ける者には災いが、と言っているように思える。ところが、ヨブは正しい人であるにもかかわらず、ひどい災いにあいました。災害は神さまの計画であり、罪に対する警告だと語られることがあります。けれども、ヨブ記は必ずしもそれが

正しいとはいえないことを示します。

ヨブの苦しみの理由。聖書は不思議なことに、ヨブが神さまと共に歩む人だったからだ、と言います。「主はサタンに仰せられた。『おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者は…いないのだが』」(8)。サタンはヨブと神さまのすばらしい関係を傷つけたくなりました。妬みから？怒りから？

ヨブと神さまの試練の中でも破れない関係。神さまはそれに賭けます。試練の中でもなくなるヨブの賛美を私たちに聞かせようとして。神さまは、とても心を痛めておられたにちがいない。できれば、かわってご自分が苦しんだ方がましだとまで。けれども、それは主イエスの十字架のときです。このときはヨブが試練に合わなければなりませんでした。

神さまとヨブのすばらしい愛と信頼の関係が、サタンの暗い思いよりも強いことを証明するために。神さまの恵みが、試練の中で、ヨブを守り抜くことを示すために。私たちがそこから、慰めと励ましを得ることができるために。だから神さまは、サタンがヨブを試みることを許されました。痛みを覚えながら許さなければ、ならなかったのです。

「ヨブ記を理解するためには、読む人の人生経験の深みが必要だ」と「牧羊者」にありました。ヨブ記を理解すること、人生における試練の意味を理解すること、そのためには人生経験の深みが必要。神さまと共に歩く経験の深みと言ってもいいでしょう。そうでないと、試練の中でだれの助けにもなることができません。私たちと歩んでくださる神さまの痛みが分かることがたいせつなのです。

【試練の中での賛美】

私たちは神さまに抱きすくめられています。この喜びは、だれも奪うことが出来ません。サタンにできるのはせいぜい命を奪うこと。でも死を超えて、神さまは私たちを抱きしめ続けておられる。その神さまは、御子を十字架で与えてくださった神さまです。

ヨブはこの神さまを知って、信じ、この神さまが好きでした。だから試練の中でも賛美することができました。

私たちも神さまを信じ、神さまを好きで、神さまを賛美します。神さまがどれほど、私たちを愛してくださっているかを知っているからです。そして、「主の御名はほむべきかな」(21)と、試練の中で賛美する私たちを通して神さまを知る人びとが続いて起こされていくのです。